

毎日、暑い日が続いていますが、皆様体調の方は大丈夫ですか？今年も節電のため、暑さ対策を工夫されている所も多い様ですね。さて今回は、『失語症の検査・訓練』についてのお話です。

今回のテーマ

## 失語症の検査・訓練について

失語症の検査にはいくつかの種類がありますが、ここでは代表的なものを2つご紹介します。

### 標準失語症検査

#### <対象>

成人の失語症の方を対象としています

#### <目的>

- ① 失語症の有無、失語症の重症度、失語症のタイプを鑑別診断します
- ② 定期的に施行することで、治療効果や自然回復について、経時的な言語能力の変化を把握します
- ③ 失語症のリハビリテーション計画を立てる際の指針を得ます

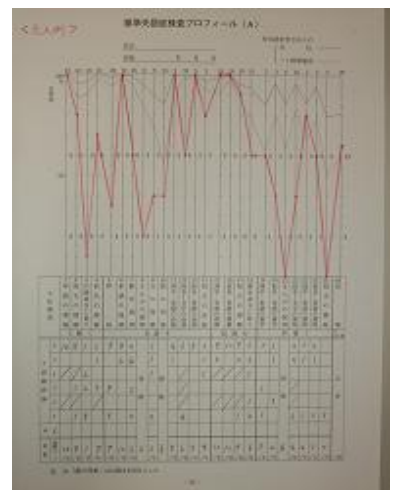
#### <構成>

「聴く」・「話す」・「読む」・「書く」・「計算」の5つの大項目、26の下位検査によって構成されています。それぞれの項目には、言語様式の違う課題が用意されています。口頭(書字)提示による絵の選択課題、絵を見てその名前を答える呼称課題、動物の名前を思い出す限り言う語列挙の課題、復唱課題、漢字や仮名文字の音読などの課題、口頭(書字)提示による物品操作課題、書字課題等があります。また、課題には易しいものから難しいものがあり、訓練をどのレベルから開始したらよいかを決めるのに参考になります。各課題で正答できないときには検者がヒントを与え、それを手がかりにして正答できるか否かをみます。ヒントが正答を引き出す手がかりになるかどうか、訓練の内容を決めるにあたって重要な情報となります。

下位検査の多くは6段階で採点され、正答か誤答かの2段階で評価するよりも、反応行動の内容をより細かく知ることができます。

検査の成績は「標準失語症検査プロフィール(A)~(C)」の3種の図によって表すことができます。

#### <プロフィール表>



#### <物品の操作課題>



#### <絵の選択課題>



## 実用コミュニケーション能力検査(CADL 検査)

<CADL 検査用具>

日常生活場면을踏まえた課題を行い、総合的なコミュニケーション能力を検査します。

### <対象>

主に成人のコミュニケーション障害のある方を対象としています。

### <目的>

- ① 言語機能面の評価だけでは把握できにくい言語能力面に対する評価を行います。
- ② 検査結果を基に日常生活でのコミュニケーション活動で必要と思われるコミュニケーション手段を訓練し獲得を目指します。

### <内容>

実際の生活用品を用いて行われます。検査内容は、「自動販売機で切符を買う」、「出前の注文をする」、「聞いた時刻に時計を合わせる」、「テレビの番組欄を読む」など、日常のコミュニケーション場面を想定した課題から成り立っています。情報が伝達できたか(実用性)の有無を採点の基準とします。ジェスチャーや描画による伝達であっても、実用性が認められる場合には得点が与えられます。採点は、4~0 点で行われ、総得点から、①全面援助、②大半援助、③一部援助、④実用的、⑤自立 の5段階でコミュニケーションレベルが評定されます。



## 失語症の訓練

検査とその評価に基づき、訓練計画を立案します。訓練には様々な方法がありますが、代表的なものをいくつか紹介します。



### 1. 言語機能面への働きかけ

- ①聴覚的理解の訓練:例)単語・文と絵のマッチング、文の正誤判断、口頭命令に従う
- ②読解の訓練:単語・文と絵のマッチング、書字命令に従う
- ③発話訓練:復唱、音読、絵(物品)の呼称、動作絵・漫画の説明、しりとり、作文
- ④書字の訓練:写字、書き取り、絵(物品)の書称、動作絵・漫画の書字説明、日記
- ⑤計算の訓練

### 2. 実用的コミュニケーションへの働きかけ

#### ①PACE(失語症患者のための実用コミュニケーション能力促進法)

具体的な方法としては、目の前に伏せて積んである絵カードを ST と患者様が交互に引き、その内容を発語、ジェスチャー、指さし、描画、書字など、言語・非言語のどのような手段を用いても相手に伝えるというものです。1)治療者と患者様が新しい情報を交換する、2)患者様は情報伝達手段を自由に選択できる、3)治療者と患者様は情報の送り手と受け手として同等の役割を分担する、4)形式の正確さよりも内容を伝達できたかどうかを重視する という4つの原則にそって行います。

#### ②AAC(拡大・代替コミュニケーション)

AAC とは、コミュニケーション障害をもつ人々を援助するためのコミュニケーション方略の総称です。失語症の患者様における AAC の具体的な手法としては以下のものがあります。

1)書字(筆談)、2)ジェスチャー、3)その他の非言語コミュニケーション手段(表情、視線、うなずき、身体接触など)、4)文字盤(50音表)、5)単語・文や絵・図の指さし、6)描画、7)その他特殊な機器 等



\* 言語機能面の改善のみでなく、コミュニケーションの問題をできる限り軽減し、患者様の生活の質を高めるために、様々な側面からの働きかけを行います。